

# ものづくり企業こそ SDGsに取り組むべき理由

GOALS SUSTAINABLE DEVELOPMENT



棚橋電機株式会社  
代表取締役社長 棚橋 秀行氏



株式会社光製作所  
代表取締役 井上 吉史氏



株式会社スマイリーアース  
代表取締役社長 奥 龍将氏

SDGs(持続可能な開発目標)は、2015年9月の国連サミットで採択された17のゴールと169のターゲットからなる2016年から2030年までの国際目標だ。SDGsには法的な強制力がなく、取り組み内容についても取り決めはない。幅広いテーマが網羅されているゆえに、イメージしづらい面があるのも確かだ。そのため、採択から6年が経過する中でも、「何から手をつければいいのかわからない」「取り組み方がわからない」と悩む企業も多い。

今回は「環境」「まちづくり」「つくる責任・つかう責任」など、さまざまな側面からSDGsに取り組む企業3社の代表が、その考え方や活動内容について語った。それぞれの発言から浮かび上がったのは、経営理念こそが重要であること。SDGsが身近なものであることに気づき、実践可能な目標からぜひ挑戦して欲しい。

## 原料や製法を見なおして 地球を汚すことのないタオルを。

**奥** 私たちはSDGsが目的ではなくて、自分たちのものづくりを良いものにしてこうという方向性がSDGsの項目とつながったという感じです。「2030年までにタオルが地球を汚すことを無くす」ために、9つのアクションを掲げていて、中心に位置づけているのは「9・12・14・15・17」です。

**棚橋** すごいね、9つも!



**奥** 薬剤を使わずにタオル製造することは、産業と技術革新の基盤をつくる「9」、さらに薬剤を使わないことで処理水が無害になる。泉佐野ではタオル産業がもたらす汚染水で、近くを流れる川が「日本一汚い川」になった悲しい過去もあります。それを解決する技術を開発した結果、川と海はつながっているので「14」の海の豊かさを守ることになる。環境インパクトを与えない製造方法を開発すれば「15」の陸の豊かさも守っていただけます。「17」に関してはウガンダとのパートナーシップです。



「偽りのない完全なオーガニックの物作りを追求する」スマイリーアースの、ウガンダ産オーガニックコットンを使った製品「真面綿(まじめん)」のり剤など綿の強度を高める薬品を使う高速の織り機ではなく、あえて古い低速の織り機で織り上げ、柔らかく、しっとりした感触に。奥氏は年に数回、原料の綿花を輸入するウガンダに足を運び農家との交流を続けている。●株式会社スマイリーアース



**井上** 産地のウガンダとの関係ができたのと、薬剤を使わない技術開発はどちらが先だったのですか?

**奥** 製造プロセスの改善課題というのは、近所の川が国内ワーストワンになった時点で見ていたのですが、父はすぐに着手できなくて。2000年以降、中国産のタオルが入ってきて、産地であった泉佐野の生産量が10分の1になった。そのときようやく「これからタオルづくりを続けていくには、どういう形がいいのか」と考えた。また父は学生時代からアフリカが好きで、放浪したこともあって。再訪したときに綿花が栽培されているのを見て、自分の仕事が大好きな場所とつながり、アフリカの綿花を使用するようになりました。そこで見たオーガニックコットンをつくるプロセスがすごく。農業を使わず育てた綿はひとつずつ手で摘む、そんな素晴らしい綿花をいい状態で届けるために、技術開発という視点が出てきます。

**棚橋** 中国産のタオルの台頭でこれまでの大量生産でやってきたツケというか、ものづくりを見つめ直す時期がきたと。どの製造業にも言えることですが、「ものづくりは何をどのように製造すべきか」と考えなければ、次の時代につなげられないですね。

**奥** タオル職人である自分たちは、化学薬剤に頼って簡単な道ばかり選んできました。どの業界もそうですが、生産プロセスのメリットとデメリットをきちんと説明せずに、

デザインや機能だけを謳ってある意味消費者にばらまいていた。だからこれからはオープン化というか、「見せられる自分たち」であること目指そうと。

**井上** 奥さんは大学時代、優れた陸上選手で箱根駅伝も走られたと聞いていたので、ウガンダに陸上留学されたのがきっかけと誤解していました。

**奥** いやいやいや(爆笑)。

**井上** じつは私もこう見えてマラソンやっています。大阪マラソンで3回完走しています。それで気になっていたのが、出場すると記念にタオルがもらえるじゃないですか。あれって中国製ですよね。不思議でね、地場産業があるなら地元のタオル配ればいいのか。

**奥** ぼくの父や祖父が手がけていた泉州タオルですが、産地が積み上げてきた得意分野を持って高度経済成長期に中国に工場をつくる人が大勢いて。人件費は国内では太刀打ちできない。それで価格が半値以下で同じクオリティのものがつくられ、商社を通じて国内の市場に一気に広まった。

**井上** スマイリーアースのタオルで取り戻して欲しいですね。

**奥** SDGsの波がうまく社会変革につながっていくように、タオル屋として貢献していきたいというのはあります。

## 地域とコミュニケーションできる関係を築き、 東成区を金属のモニュメントが溢れる街に。

**井上** 当社の経営理念は「我々は社会の光となります」。光は希望であり、必要不可欠なもの。安心や活力、そして命の源である。私たちに光が必要なように、自分たちは地域になくしてはならない企業を目指しています。奥さんが先ほど言われたように、うちもまず経営理念があってその企業活動の延長線上にあるのがSDGs。会社を営む東成区には製造業は約1100社もあり、昔は中小の工場と住宅が混在していましたが、企業の廃業や移転などでなくなり、その跡地が分譲住宅やマンションなどに変わった。すると企業と住民のトラブルが起こる可能性もあります。

**棚橋** 大阪市内だと「住工」の問題は発生しやすいですね。

**井上** そうなって欲しくないで、2010年に「東成区住工共存まちづくり懇談会」に参加しました。そのメインの活動が「わが町工場見てみ隊」という親子での工場見学会。工場でどんなものをつくっているかを知ってもらうことで、コミュニケーションできる関係を築きトラブルを未然に防ぐというものです。これが原点としてあって、ものづくり体験イベントへと発展します。ほかにも地元の大学である大阪工業大学ともつながりを持ち、卒業作品展のお手伝いなどもしています。

**棚橋** まず地域とのつながりからできていったわけですね。

**井上** そもそも私はSDGsを3年ほど前に知ったばかりで。それまでは住工とか地元の活動ばかりしていた。そういう下地ができたところで東成区長の浅野篤さんと出会いました。JICA(独立行政法人 国際協力機構)出身の方でSDGsを強く推進されている方です。

**奥** SDGsでも、やはり地域関連に力を入れられてるんですか?

**井上** 「4・8・9・11・17」に力を入れています。それ以外にも、ひがしなり企業区民連携フォーラムや「ひがしなりソケット」に参加しました。目的はSDGsを推奨しているグッドカンパニー。ひがしなりソケットでSDGs認証を、区から東成サステナブル認証もいただいています。

**棚橋** それはどういう団体なんですか?

**井上** 「ひがしなりソケット」は町工場だけでなく、市民、学校、金融機関までありとあらゆる東成に関わる方が参加しているんですけど、自分なりに解釈していれば